

金城山 雪山山行 山行報告

(山 域) 越後の山

(日 時) 3月5日(土)早朝発～6日(日) (天気)快晴

(参加者) CL 柘植 SL 橋本 富樫 小俣 大木 澤田(路) 萱野(香) 宮城 加藤(記録)

(コース) 3/5 塩沢石打 IC— 登山口 10:50→(観音山コース)→826M ピークの上(テント設営)14:15

3/6 テント場 6:45→9:30 頂上稜線 9:55→テント撤収→登山口 14:00

(報 告)

金城山は六日町の東側、巻機山の北西、八海山の南西に位置し、標高 1369M、頂上は妙義山のような岩稜帯となっている。金城山は個人的に3度目であり、前は昨年10月中旬に紅葉山行で訪れている。今回も前回と同じ観音山コースを辿り、途中でテント泊、翌朝登頂を目指すという計画である。3/5(土)塩沢 IC を出て登山口に向かう途中、新設のコンビニに立ち寄る。登山口は標高 200M、雪は全くない。石仏が迎えてくれる。落ち葉に覆われた登山道は秋山と同じである。東屋で小休止、石仏の広場から雪が出てきたが腐れ雪なので歩き難い。



登山口にて



眼下に南魚沼の平野が広がる



正面に金城山を眺めながら前進



六日町の坂戸山も雪が少ない

途中でワカンを装着する。左側に八海山、隣に大きな山容の中ノ岳、奥に越後駒ヶ岳の山頂が見渡せる。尾根は明瞭で先行パーティーが程良くラッセルしてくれたのでトレースをそのまま利用させてもらった。無木立の 826M ピークのすぐ裏に幅広い鞍部がありテント2張、入口が向かい合わせになるように設営した。宴会準備中、赤く燃えるような日の入り、夜は六日町の街の灯り、スキー場の花火を眺める

ことができた。



幕場付近の様子



夕暮れの南魚沼平野を望む

3/6(日) 今日も快晴、テント場からすぐ上部は尾根も細くなるため出発前にアイゼンを装着する。見晴らしの良い稜線は雪庇も少し(2〜3M)張り出し、先行パーティーが残したトレースを忠実に辿って行く。



出発前の雄姿？



好天の尾根を登る



八海山が見えてくる



快適な雪稜を行く

南から支尾根が合わさる地点では正面の険しそうな急登を避ける巻道らしき踏み跡をたどるが、どこかの尾根に下る踏跡のようだったので元に戻る。その先は夏は鎖のあるところだったが、今回は雪が踏み固められていたので比較的簡単に乗り越えることができた。最後の急登後、頂上の稜線に辿り着いた。



谷川～苗場方面の展望



さらに雪稜を進む

ここが昭文社地図では金城山山頂である。さらに最高点へはヤセ尾根、岩稜が連続し、所々雪庇が崩落していて危険なので最高点を目指すことは諦めた。白く輝く巻機山や避難小屋を見渡せる地点で大休止し、写真撮影に余念がない。



頂上稜線から巻機山を望む



落ちかけた雪庇の向こうに奥利根の山々



危ない山頂にて



安全地帯へ慎重に引返す

下山はトレースをそのまま下ったが、勢い余って雪の下の笹に足を取られ抜けなくなる人もいた。テントを撤収し、登山口に戻ると昨日残っていた畑の雪は完全に消えていた。下山後は「金城の里」にある¥320 の地元の人が利用する「金城の湯」で入浴し、へぎそばで有名な「中野屋 塩沢店」で蕎麦を味わい、魚野川を挟んで暮れゆく金城山の勇姿を堪能して帰葉した。